

English Garden 第60話

"Tomorrow the birds will sing."

Charles Chaplin

「明日が来れば鳥も歌うよ」 チャールズ・チャップリン

チャールズ・チャップリンの無声映画"City Light"('街の灯',1931年)の字幕から、浮浪者のチャーリーが、自殺しようとしている男を思いとどませようとしてかけた言葉です。男は百万長者で、この慰めも聞かずにロープを首に巻いてまた身投げをしようとし、止めようとしたチャーリーともども水の中に落ちてしまいます。二人がやっとのことで這い上がってきたとき、男はずぶぬれのままチャーリーに抱きついて、"I'm cured. You're my friend for life."(私は目が覚めた。君は生涯の友だ)と泣きました。

チャップリンが「街の灯」の撮影を始めたのは、ちょうどトーキー映画が始まったころでした。1927年にワーナー・ブラザーズが初のトーキー映画「ジャズ・シンガー」を公開すると、流れは一気にトーキーへと傾いていったのです。しかし、チャップリンはもともと「名人」を自認するパントマイム役者だったので、簡単に無声映画を捨てることはできませんでした。でも、トーキーが出現してからすでに3年、俳優たちは台詞に合わせる演技に慣れてパントマイムの演技を忘れていたため、苦勞が多かったということです。

この映画には、無声映画ならではの名場面が数多くあります。まずは例のだぶだぶズボンにきつい上着、山高帽のチャーリーが、初めてこの物語のヒロインである盲目の花売り娘と出会う次のような場面です。「チャーリーは車に占領された道路を横断しようとして、車の一方のドアから入って反対側のドアから出てくる。ドアの閉まる音を聞いた盲目の花売り娘は、車の持ち主だと思って花を差し出す。彼は狼狽し、なげなしの半クラウンを出してボタン穴に飾る花を一輪買うのだが、手が娘の手に触れて花は道路に落ちてしまう。娘は片膝をついて手探りで花を探す。彼は花を拾ってやるが娘は気がつかないので、不審そうに娘の顔をうかがい、もしやと娘の目の前で花を動かしてみる。そこで盲目であることを知り、詫びて娘を抱き起こす。娘はチャーリーの手をとり、その感触を確かめるようにして花をボタン穴にさしてやる。娘が「お釣を」と差し出したとき、駐車していた車の持ち主が戻ってきて乗り込み、ドアを開けて走り去る。娘はその車の方に向かってにこやかに手を振る。気落ちしたチャーリーは、足音を忍ばせて立ち去って行く...

このシーンはたった70秒ですが、撮り直しの連続で、5日かかってようやく満足のいくものができたそうです。

さて、チャーリーと命を救われた百万長者とのあいだには 奇妙な関係が成立していました。長者は酔っ払っているときだけチャーリーにこの上なく親切で、酔いがさめると急に邪険なのです。チャーリーは娘が家賃を滞納して立ち退きを迫られていることを知り、何とか金を稼ごうとしますが、うまくいきません。街をふらふら歩いていると酔っ払った長者に声をかけられ、無理矢理彼の豪邸に連れていかれました。チャーリーが娘のことを話すと、「千ドルもあれば十分だろう」といって、財布から無雑作にお札を数枚抜き取ってチャーリーに渡してくれました。ところが、そのときソファの後ろに隠れていた強盗が 長者を殴りつけて気絶させてしまいます。チャーリーはただちに警察に通報しますが、大金を持っていたため、駆けつけた警官に嫌疑をかけられます。が、何とかその場を逃れ、その金を家賃と目の手術代として全部娘に届けました。一方、意識の戻った長者はチャーリーのことを全く覚えていません。チャーリーはついに刑務所に入れられてしまいました。

数ヶ月後、出所してきたチャーリーがいつそうみずばらしい姿であの街角にやってきますが、娘の姿はありません。うろろしている立派な花屋があるのに気がつき、中をのぞいて驚きました。あの花売り娘がいるのです。娘は浮浪者姿のチャーリーを見て、さもおかしそうに笑いました。目が見えるようになったのを知ったチャーリーは、喜びながらもうろたえます。娘はバラを一輪と小銭を持って店から出てくると、チャーリーに与えようとして彼の手に触れました。すると、盲目だったときの親切的な男性の手の感触が戻ってきました。「You?」(あなたでしたの?)チャーリーは恥ずかしそうにうなずいて言いました。「You can see now?」"Yes, I can see now."チャーリーの顔が輝きます。手を握りあって微笑む二人。観客の涙をさそう感動的なラスト・シーンです。

ドタバタ劇でたっぷりと笑わされたあとの憂愁に満ちた愛の喜び。久しぶりにチャップリンの無声映画を見た私は、並みはずれた演技力に圧倒される思いでした。この「街の灯」を紹介した1973年の『キネマ旬報』を見ると、「(上映が終わっても)客席の灯かりをつけないで」という言葉がキャッチフレーズとなっています。

なお、チャップリンの自伝によると、「街の灯」のロサンゼルス公開の初日には アインシュタイン博士夫妻を招いて並んで鑑賞したということで、チャップリンは最後のシーンで博士が目を拭っていたのを見て、「科学者というのはなかなかのセンチメンタリストだとい

